

◆半紙二行たて書きに臨書して下さい。出品料430円

書譜 孫過庭



- 1、字句「妙擬神仙」形式「半紙タテ使用。右に「妙擬」、左に「神」と臨書し、左余白に落款「〇〇臨」と調和を工夫し書き入れる。
- 2、

3、

概観「古典の臨書は何から始めたらいいか」とよく聞かれます。古典は数多く、確かに最初は戸惑うことと思います。書の古典とは書美の典型としての価値を持った作品です。古典とは、その作ができあがった時に古典となったのではなく、後世になって与えられたのです。

王羲之の諸作は、その在世当時から高く評価されていたに違いありませんが、古典としての地位が確立されたのは南朝の貴族の賞玩と、初唐の名人たちの尊崇によります。王羲之の作はもろろん今もまだ残っている古典は全て時代の評価をクリアしたものです。

そこで、何を選択するかですが「まず古典の中から自分がこんな文字を書きたいと思える作を」と答えています。そして、決めたら時間をかけてじっくり習うことです。繰り返し練習することによりはじめて効果が得られます。「書譜」は今回で最後です。

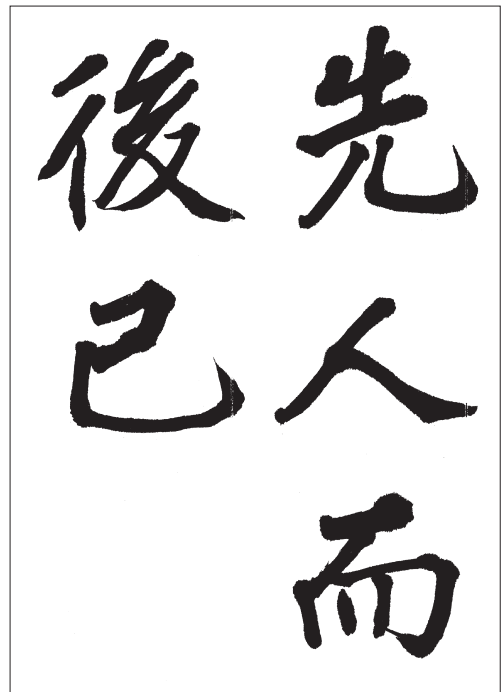
4、

各字のポイント
妙 上から入筆し、筆を引き上げて二画目表面で連筆し△で裏面で、旁では筆をしっかりと突き、△で裏面で○で折り返し、表面で勢いよく、擬 △での面の使い方に留意。縦画二本は右に傾く。表・裏面の連続の筆遣い。

神 一画目から二画目之間。△で裏面○で表面。□で押し後、引き上げ次画は右下がり。終画の懸針は書譜に多く出てくるが、一気に引き抜く。

仙 人偏は鋒先で入筆し、左に押すようにしてから引き上げる。旁の△の部分は断筆。筆順は、1・2・3の順。(草書ではこの筆順が多い。)

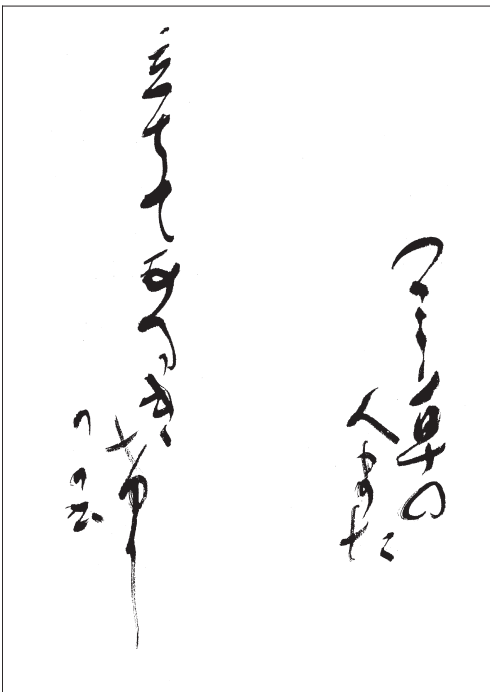
半紙課題(予告) (二月二十二日締切)



平岡華雪先生書 人を先にして己を後にす。(礼記)

訳…人のことを先にして自分のことは後にする。

平岡華雪先生書 摘草の人また立ちて歩きけり(素十)



A 高橋香樹会長書

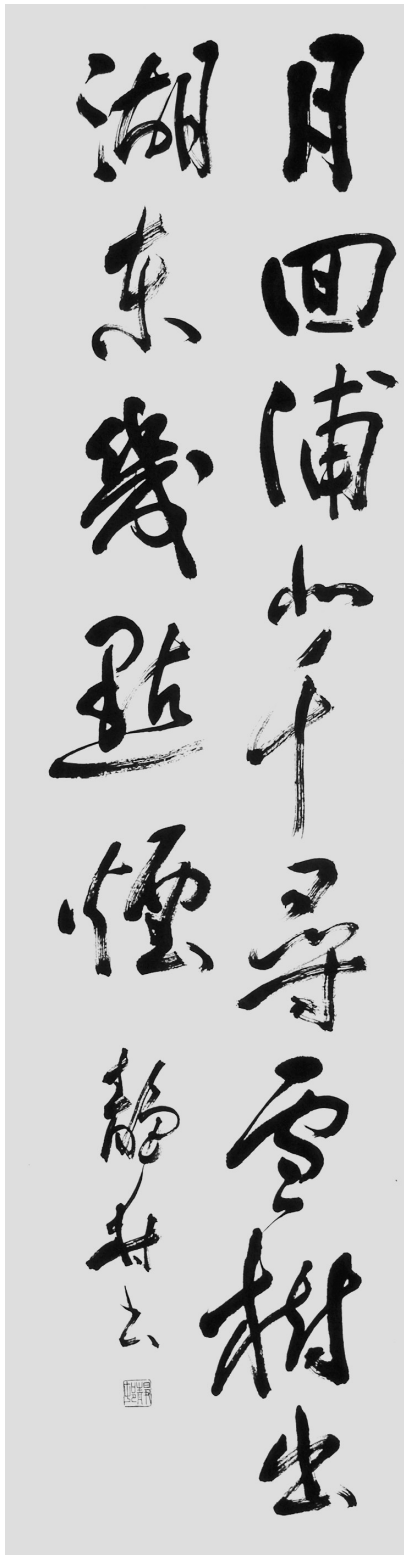
月回浦北千尋雪 樹出湖東幾點煙 (曹鄴)
 月は浦北を回る千尋の雪、樹は湖東に出づ幾点の煙。



B

鈴木静村先生書

今回は行書の単体作。とかく単体にする流れの表出が難しくなる。上の字の終画を次字の始筆に連綿させる意識で。文字形は正方形、長方形になりがち。三角形・台形を入れることにより流れを表出できる。「回」は「回」で、「湖」は米芈を借用。墨継ぎは「雪」と「東」。



今回は「単体」で通してみた。連綿線(実画として)はないが、字々のつながりが切れているわけではない。二か所の墨継ぎ以外、単体とはいえず脈のつながりを意識しての作。単体のむずかしさは「つながり」にある。いかにしてバラバラに見えないようにするか。この工夫、訓練こそ作品づくりのポイント。各自の鑑賞眼を大いに見開き、駆使・実践させてほしい。

訳：浦の北に深く積もった雪を月が照らし、湖の東の樹の間からいくつかの煙が立ち上る。

予告 (二月二十二日締切)

侵晨試墨書蕉葉

趁月弹琴上竹樓 (袁随園)

- ◆注意
- ・条幅部の出品は一人一点 (バーコード券の条漢を○で囲み(1)と記入する。)
 - ・二枚目からの出品 (バーコード券の条漢を○で囲み()に何枚目か数字を記入する。出品料540円)

A

平岡華雪先生書

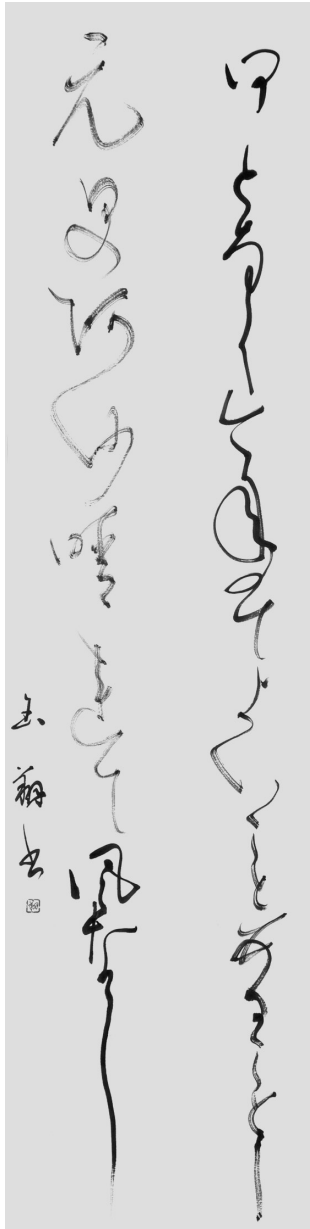
何となく今年はやい事あるごとし元日の朝晴れて風無し(石川啄木)
 ナルと那久今年八よいこ登ある故と志元日の朝は連亭可勢なし



B

福田玉翔先生書

何と奈く今年盤よいことあるごとし元日の阿沙晴連て風なし



学び方

今回は華やかさを目指して二行目の上を意識しました。二行目の墨継の位置が下方になりましたが、何とか引き締めることができましたでしょうか。

石川啄木のお正月定番の歌ですが、本当にお正月らしいウキウキする心持ちがします。和室の床の間に生け花と啄木の歌の軸があれば日本のお正月の心が一層華やきます。最近は何れに安価で軸装をする表具会社がありますので、今回出品したらその中の一枚を是非軸装して新年を迎えるのはいかがでしょうか。世の中グローバル化で世界の文化が混在していますが、お正月こそ日本文化に浸って日本を楽しみたいですね。外国人観光客が増えた昨今こそ日頃書道で培った書道の魅力を世界に発信するチャンスだと思えます。

石川啄木

岩手県玉山村の生まれ。一八八六一一九二二詩集『あこがれ』を出し一時天才詩人と遇されたが、実生活では貧困と病に喘ぎ放浪波乱の生活を送った。肺結核で亡くなったが、わずか二十六年の生涯であった。歌集に『一握の砂』没後『悲しき玩具』等がある。

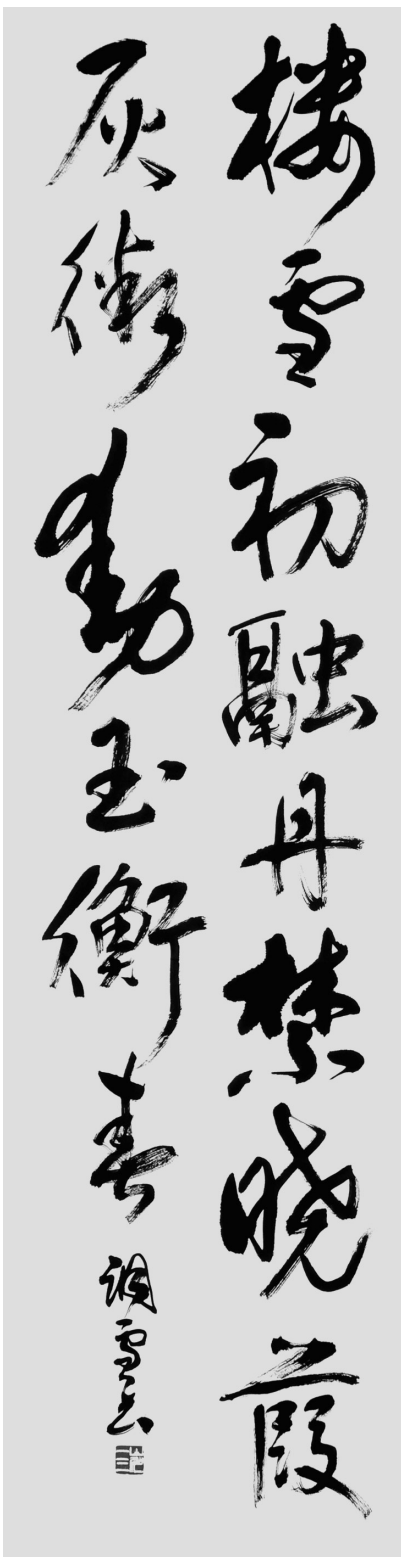
予告 (二月二十二日締切)

春霞立てるやいづこみ吉野、吉野、山に雪は降りつ、(古今和歌集)

- ◆注意 ・条幅部の出品は一人一点(バーコード券の条かを○で囲み(1)と記入する。)
- ・二枚目からの出品(バーコード券の条かを○で囲み()に何枚目か数字を記入する。出品料540円)

加藤 洞雪 先生 書

樓雪初融丹禁曉 葭灰微動玉衡春（于慎行）
 樓雪初融丹禁曉の暁、葭灰微に動く玉衡の春。

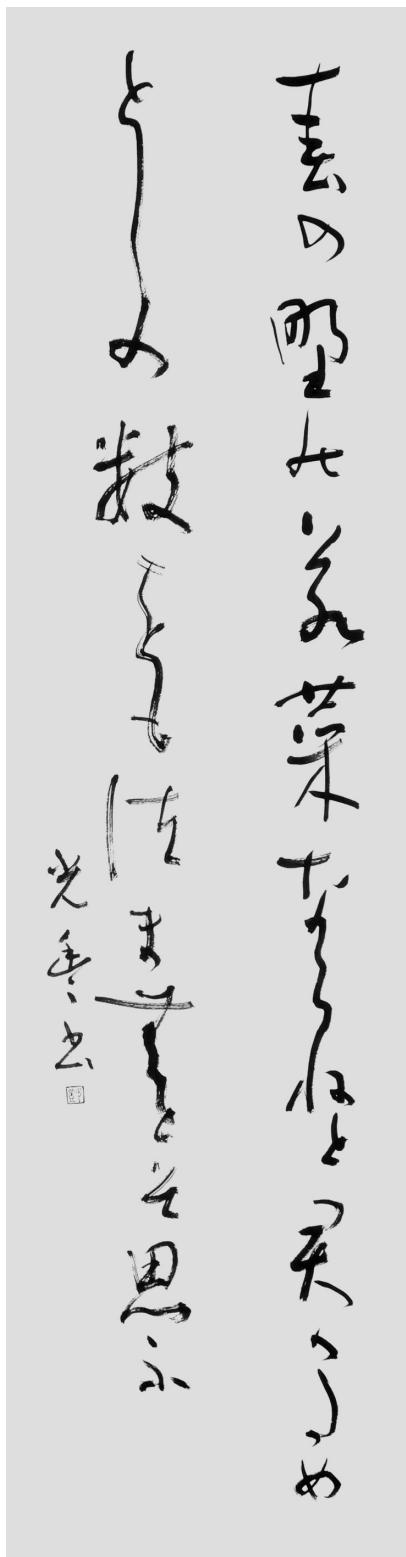


訳：楼に積もった雪が初めて解けたのは御所のよあけ、葭灰で気候を窺ったが少しく動いて春に近づいた。衡は、北斗星の中央の星。

絹 村 光 豊 先生 書

春の野の若菜ならねど君がためとしの数をもつまむと思ふ
 春の野能若菜ならねと君可多めとしの数をも徒ま無と思ふ

（拾遺和歌集 伊勢）

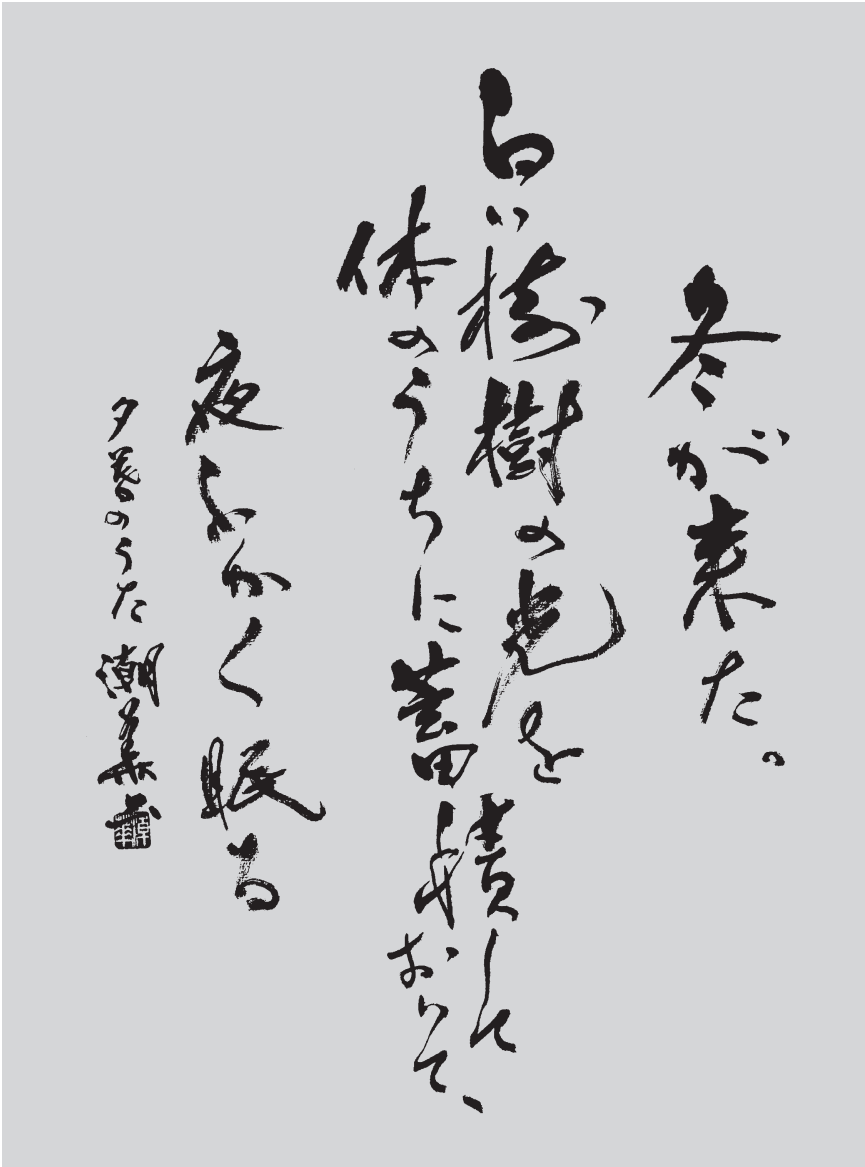


- ◆注意
- ・条幅部の出品は一人一点（バーコード券の条随を○で囲み（1）と記入する。）
 - ・二枚目からの出品（バーコード券の条随を○で囲み（ ）に何枚目か数字を記入する。出品料540円）

水貝潮華先生書

冬が来た。
白い樹樹の光を体のうちに蓄積しておいて、
夜ふかく眠る

前田夕暮

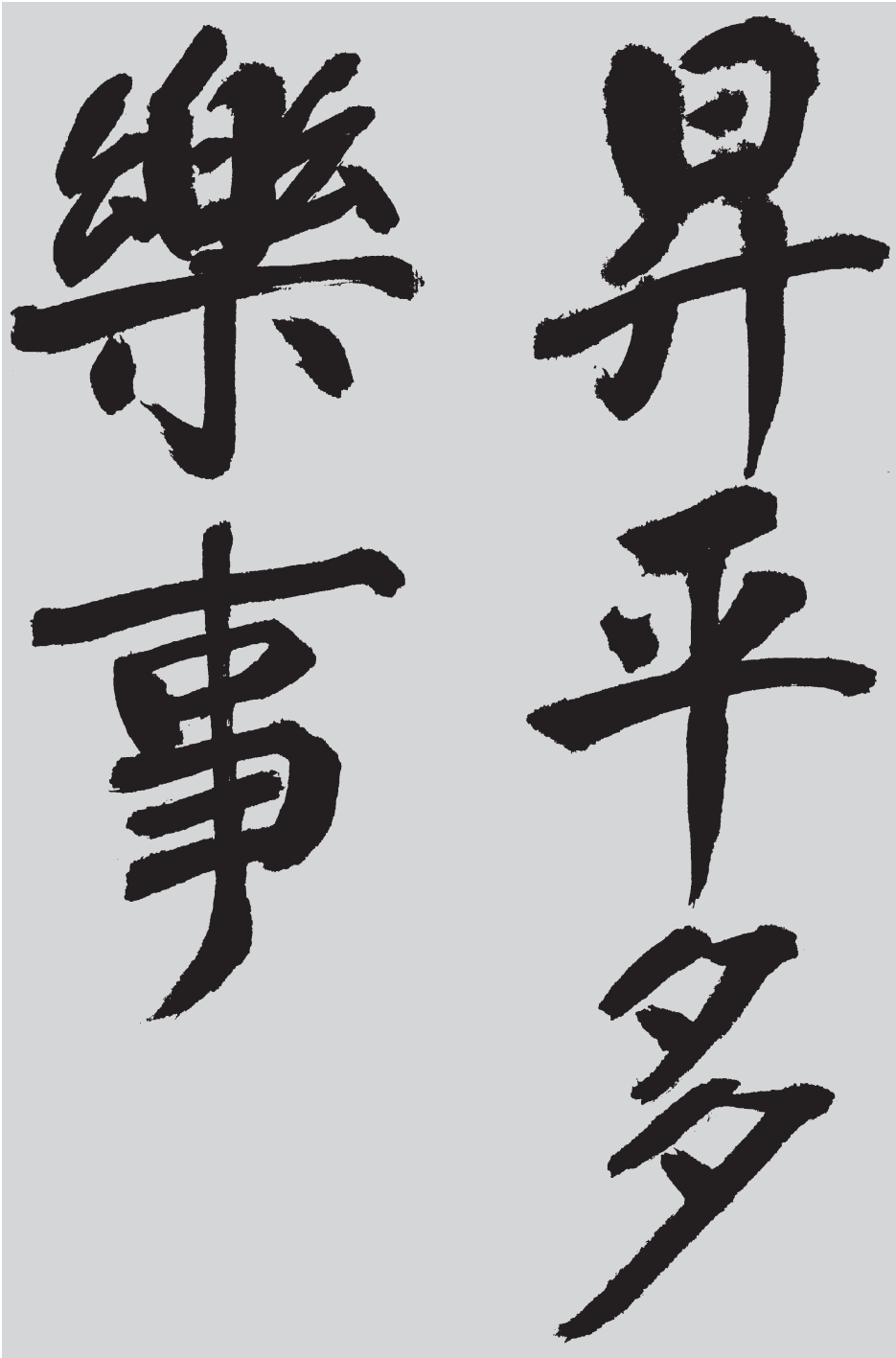


今月の作品は、「句読点」の付いた歌を選びました。句読点が付くことにより、作品にゴチャゴチャした感がないよう一行目は、短く終わります。二・三行目は山場とするために、行同士を寄り添わせ、「おいて、」を「寄せる」ことで単調さを崩します。そのためには、「蓄積…」から、少しずつ右に傾け、出来た空間に「おいて、」を書き込みます。最後の行は、下がり過ぎると紙面の下部が重くなるので、落款・印も短く切り上げ、印は白文を選び、文字に掛けて押印しました。

前田夕暮（一八八三〜一九五二）
歌人。尾上柴舟に師事。第一歌集「收穫」により、「明星」の浪漫主義に対抗し、若山牧水とともに、自然主義短歌の担い手となる。生活詠から出発し、口語自由律短歌も試みた。

◆注意…はじめて出品される方は私製の紙（3×4 cm位）に次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。出品料540円。

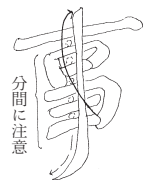
①バーコード券右空欄に漢かと記入 ②支部名または都道府県名 ③氏名または雅号 ④新



平岡華雪先生書

昇平樂事多し(蘇軾)
訳：世の中がおさまって楽しいことが多い。

〈分間の処理〉
画数の多い「樂事」は分間の処理が大切。短横画は細めに用筆すると分間もとり易い。細めで弱くならないことに留意。

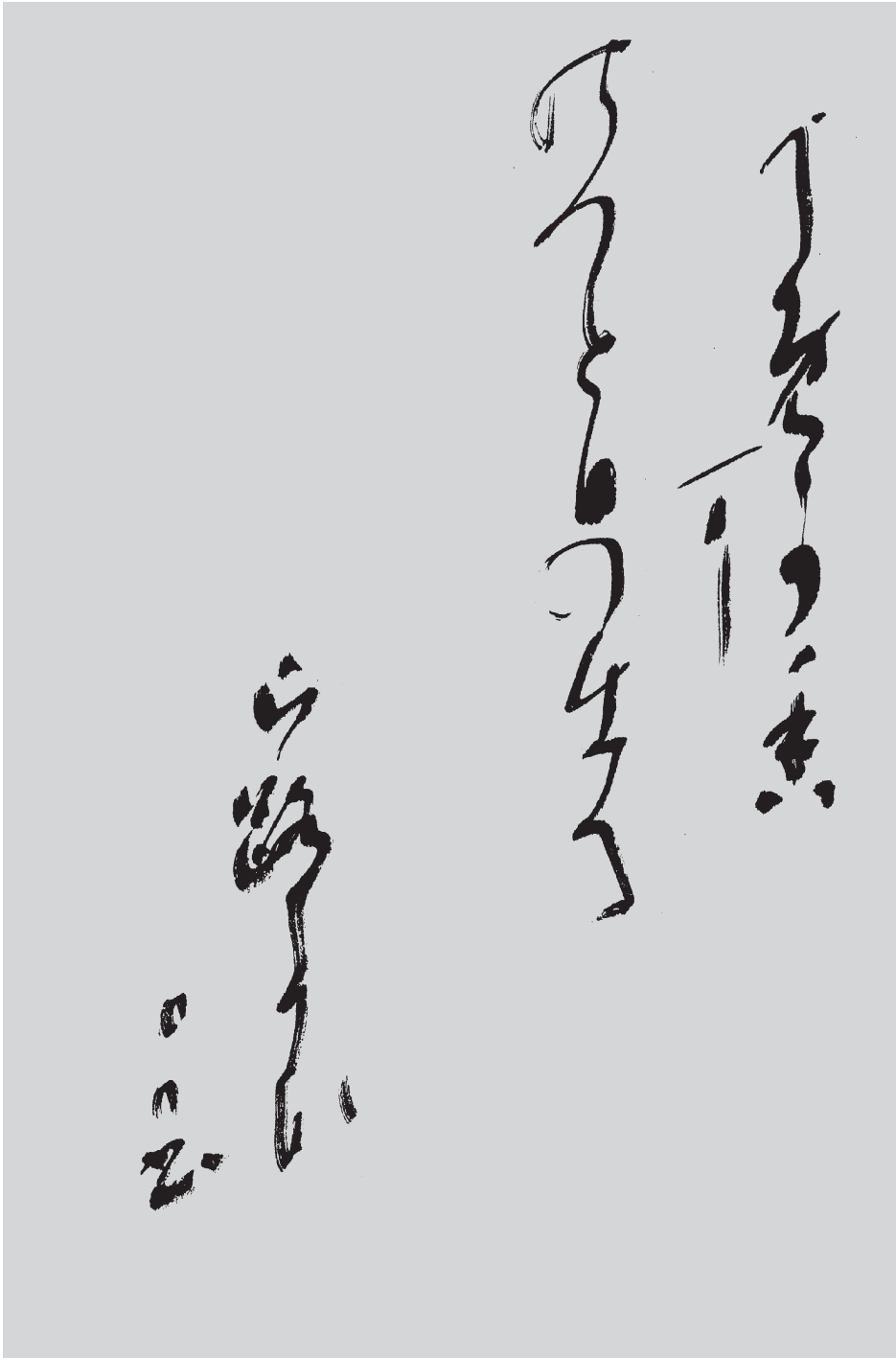


◆注意…はじめて出品される方は私製の紙(3×4 cm位)に次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。会員は無料、会員外出品料は430円。

①漢字部 ②支部名または都道府県名 ③氏名または雅号 ④新

平岡華雪先生書

うめが香にのつと日の出る山路かな (芭蕉)
 う免可香耳能つと日の出る山路可那



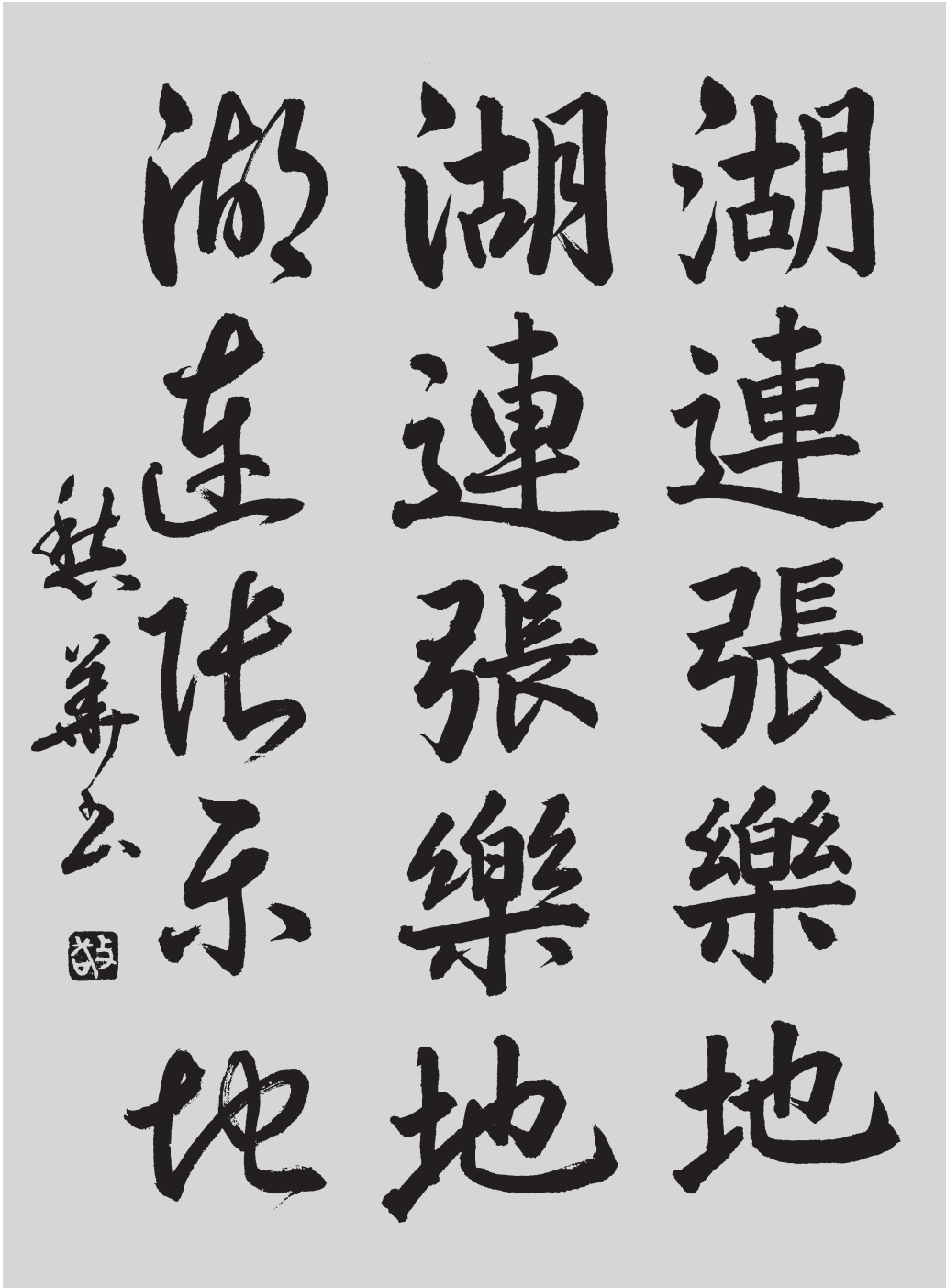
〈太細と渴筆〉
 「免」の末筆から「可」への連綿このリズム、他にも「路」から「可」基本的用筆として習熟してほしい。「能つと日の出る」単調になりやすい連綿です。特に、線の太細に工夫が必須です。さらには、渴筆の表出です。この行に渴筆の表われで太細とカスレによる線の変化を見たいものです。

◆注意…はじめて出品される方は私製の紙(3×4 cm位)に次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。会員は無料、会員外出品料は430円。

- ①かな部 ②支部名または都道府県名 ③氏名または雅号 ④新

石田愁華先生書

湖連張樂地（李白）
湖は樂を張るの地に連なり



訳：船路に広がる湖は、黄帝が咸池の音楽を演奏させたというあの洞庭湖の平野に連なり、

1. 随意部参考として出品してください。
2. 会員外の出品料は430円。

随 意 部 参 考

訳：精神をやわらげ志又は飾りなき性質を養成する。

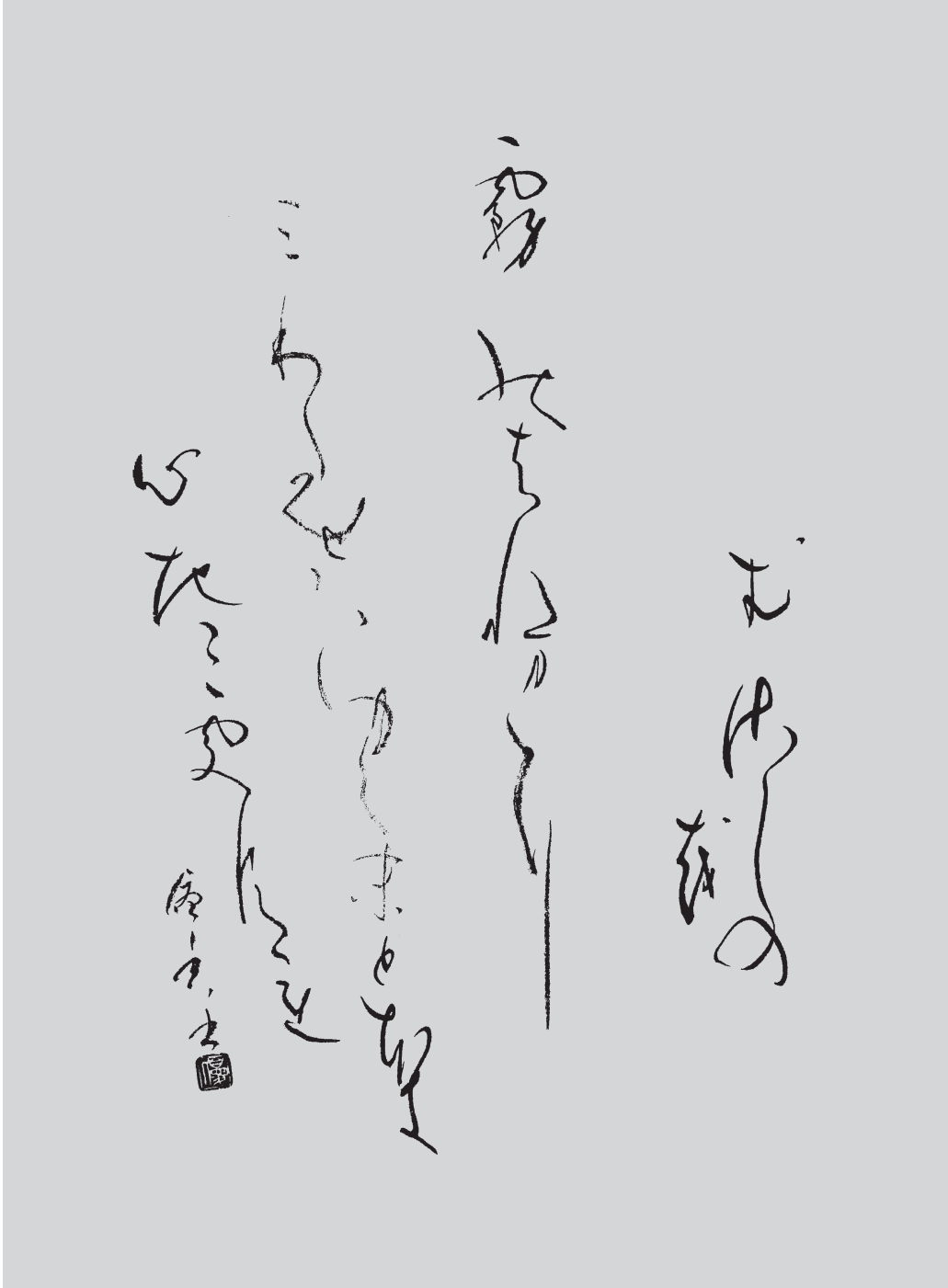


福 田 香 陽 先 生 書

和神養素（王右軍）
神を和げ素を養う。

1. 随意部参考として出品してください。
2. 会員外の出品料は430円

随 意 部 参 考



本
沢
優
香
先
生
書

むさし野を霧の晴れ間に見わたせば行く末遠き心地こそすれ（後拾遺和歌集）
むさしの越霧能者れ万耳三万多せ八ゆ久末と本支心地こ處須連

平兼盛

1. 随意部参考として出品してください。
2. 会員外の出品料は430円

稲畑 曄 穂 先生書

川上 香 蓉 先生書

課題 2 (初段階以下)

課題 1 (初段階以上)

薬師寺は古代と現代、過去といま、
そして未来というものを、一度に体験
させてくれる寺である。

夕暮れて宿を求めた村長の家でも、
馬を下りて挨拶した王子の物腰の高貴、
やにまず驚き、丁寧に奥の部屋に
案内してくれた。

課題 1 (初段階以上)

夕暮れて宿を求めた村長の家でも、馬を下りて挨拶した王子の物腰の高貴さにまず驚き、丁寧に奥の部屋に案内してくれた。
『聖徳太子の密使』 平岩弓枝

◆注意

- (1) 自分の段級に合った課題を選択。
- (2) ペンまたはボールペン(黒色)を使用のこと。青インクは不可。
- (3) 段級欄は本人が記入(色は黒)はじめて出品される方は私製の紙(3×4 cm位に)次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。①硬筆部②支部名または都道府県名③氏名または雅号④新
- (5) 会員は無料・会員外は四三〇円

課題 2 (初段階以下)

薬師寺は古代と現代、過去といま、そして未来というものを、一度に体験させてくれる寺である。

『百寺巡礼』薬師寺 五木寛之